



「投資動向に関するアンケート」調査結果

<第14回調査>

2010年8月2日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは、口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施することになりました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるといって対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて、遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の国政選挙など、市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2010年7月21日(水) 13:00～2010年7月28日(水) 13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。

今回の有効回答数は、792件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

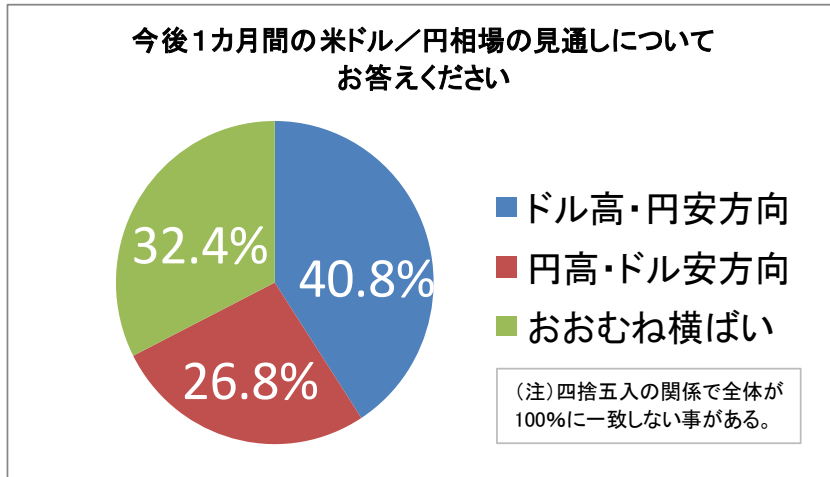
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第14回調査結果略報：ユーロ円予想DIはユーロ高方向に転換】

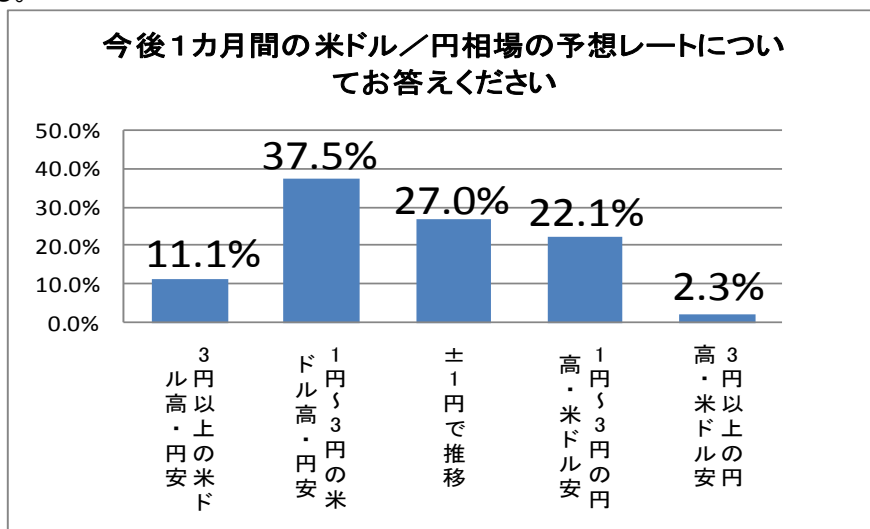
問1：今後1カ月間の米ドル／円相場の見通しについてお答えください

今後1カ月間のドル円相場見通しについては、「ドル高・円安方向」と答えた割合が40.8%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合が26.8%となった。この結果、「ドル円予想DI」は+14.0%ポイントと、前回の+16.8%ポイントに続き円安方向となった。調査期間中のドル/円相場は86円台から87円台という年初来安値圏での推移となっており、「値ごろ感」から反転を見込む向きが多かったと言えそうだ。ただ、前回第13回調査との比較ではドル強気派、円強気派ともに増加しており、FX投資家の間ではドル円相場については強弱感が対立している様子も見て取れる。



問2：今後1カ月間の米ドル／円相場の予想レートについてお答えください

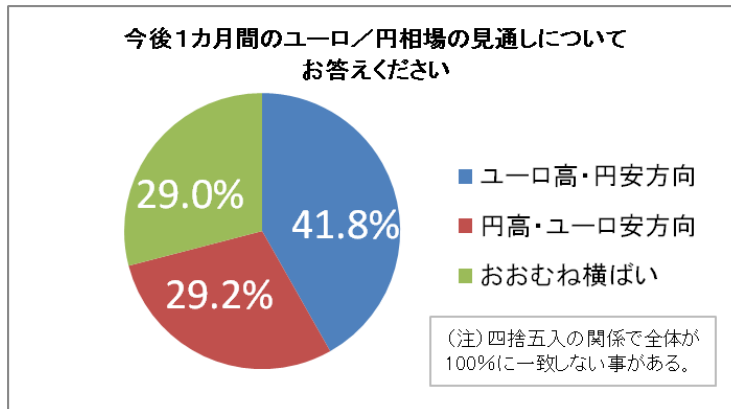
今後1カ月間のドル円相場の予想レートについては、「1円～3円程度のドル高・円安」が37.5%と最も多く、「±1円」と答えた割合が27.0%、「1円～3円程度の円高・ドル安」が22.1%、「3円以上のドル高」が11.1%、「3円以上の円高」が2.3%の順番になった。ヒストグラムの形状は、円安側に偏った格好になっており、問1の回答結果とは整合的であると言える。FX投資家層は機動的に相場見直しを入れ替えるのが特徴的だが、今回も円安見通しが円高見通しに勝る結果を反映している。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

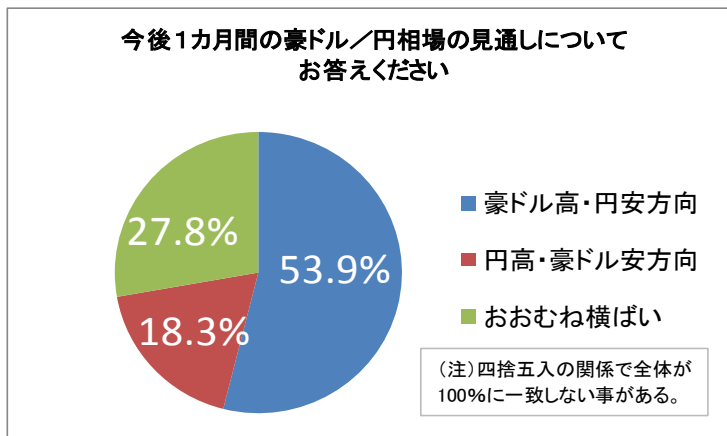
問3: 今後1か月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

今後1か月間のユーロ円相場見通しについては、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が**41.8%**であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が**29.2%**となった。この結果、「ユーロ円予想DI」は**+12.6**ポイントと、前回調査の▲5.1ポイントからプラスに転じ、昨年11月以来8ヶ月ぶりにユーロ強気派が弱気派を上回る結果となった。調査期間内のユーロ円相場は**112**円台から**110**円台を経て**114**円台へと緩やかなユーロ高・円安推移となったが、**23**日の欧州ストレステストの結果公表などを受けてユーロ圏金融機関に対する懸念が後退しつつある事からFX投資家心理はユーロ強気に変化している様子がうかがえる。



問4: 今後1か月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

今後1か月間の豪ドル円相場見通しについては、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が**53.9%**であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合が**18.3%**となった。この結果、「豪ドル円予想DI」は**+35.6**ポイントと、前回調査の+43.2ポイントと同様に豪ドル強気派が弱気派を上回った。調査期間中の豪ドル円相場は**76**円台から**79**円台へと豪ドル高・円安推移となったが、FX投資家層の豪ドル強気の相場観は維持されている。今回も豪ドル強気派が**50%**を超えており、引き続き根強い豪ドルファンが多数存在する事が示唆された。

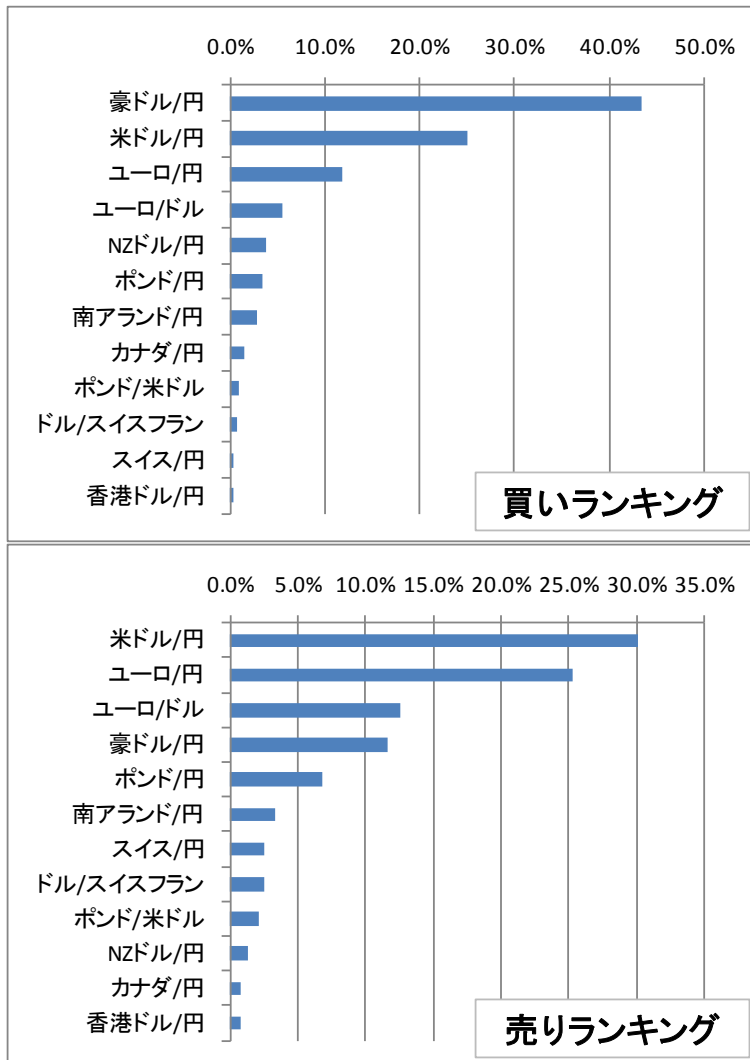


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

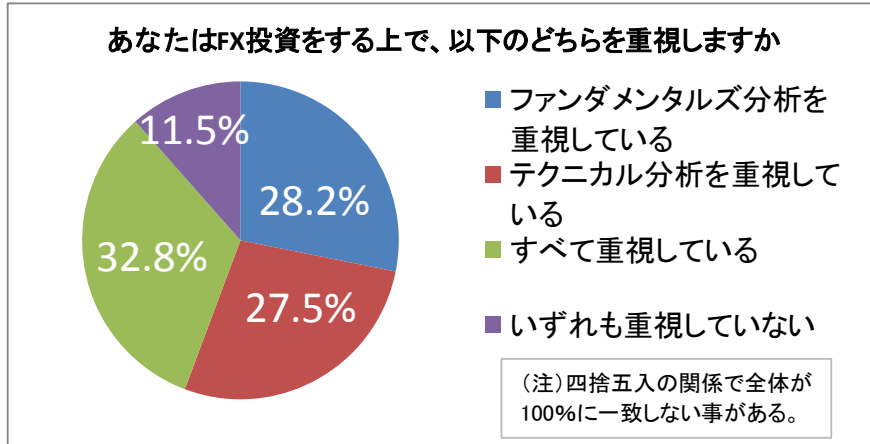
今後注目している通貨ペアについて尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位豪ドル円(43.4%)、2位米ドル円(25.0%)と前回と同じ順位となった。以下、3位ユーロ円(11.9%)、4位ユーロドル(5.6%)、5位NZドル円(3.8%)の順となっている。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル円(30.2%)であり、2位ユーロ円(25.3%)と前回から1位と2位が入れ替わった。以下、3位ユーロドル(12.6%)、4位豪ドル円(11.6%)、5位ポンド円(6.8%)の順となった。「買い」で注目の通貨ペアでは豪ドル円が5ヶ月連続で1位の座をキープしており、ここでもFX投資家層の豪ドルに対する人気の高さがうかがえる結果となった。一方、「売り」で注目の通貨ペアではユーロ円が前回調査の38.1%から25.3%に低下しており、問3の回答結果で示されたユーロ円DIのプラス転換と整合的と言える。ただ、「買い」で注目の通貨ペアに占めるユーロ/円の割合は11.9%と前回調査の10.8%からさほど増えていない。問3の回答結果ではユーロ/円DIはプラスに転換したが、他の通貨ペアとの比較ではユーロ/円を積極的に買いたいとする向きはそう多くはないようだ。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

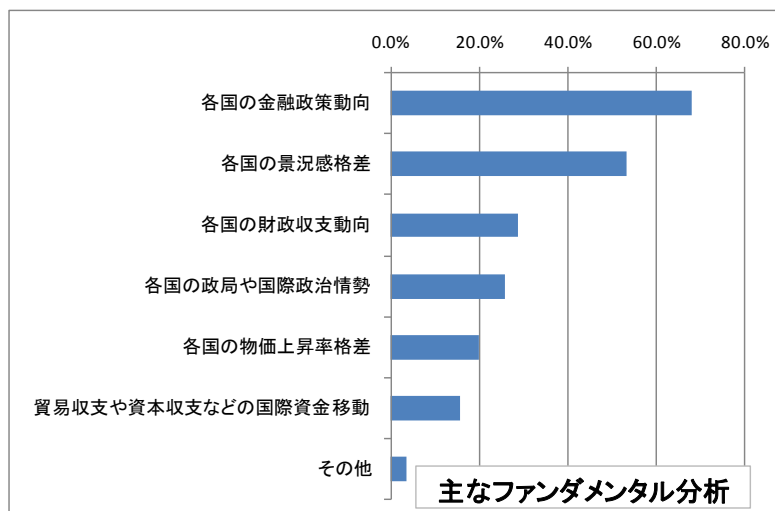
問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視する」と答えた割合が28.2%であったのに対し、「テクニカル分析を重視する」と答えた割合が27.5%と、統計開始以来初めて小幅ながらファンダメンタルズ重視派がテクニカル重視派を上回った。先進国と資源国・新興国の金融政策の違いに注目が集まる中、FX投資家の間ではファンダメンタルズを重視する向きが増えているようだ。



問7: ファンダメンタルズ分析では何を主に活用していますか?

「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場動向要因」について複数回答可として尋ねたところ、「各国の金融政策動向(68.3%)」が最も高く、「各国の景況感格差(53.5%)」、「各国の財政収支動向(28.9%)」、「各国の政局や国際政治情勢(26.0%)」、「各国の物価上昇率格差(20.0%)」の順に続いた。ファンダメンタルズ分析で活用する相場動向要因を個人投資家に尋ねたのは、2月以降連続で6回目であるが、「金融政策動向」や「景況感格差」などの基本的な要因と合わせて、先進諸国で今年実施される選挙に絡んだ「政局・国際政治動向」や、ソブリンリスク問題に絡んだ「財政収支動向」等に注目する個人投資家の現状が見て取れる。

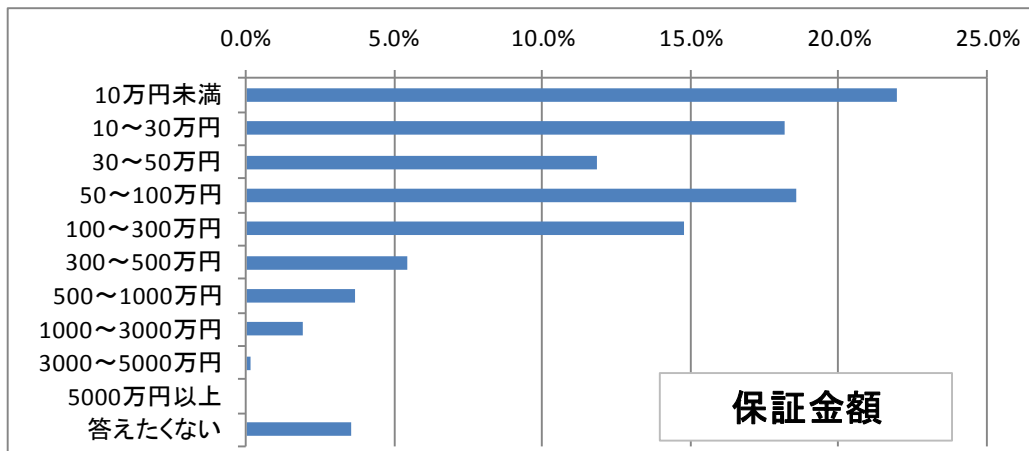


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

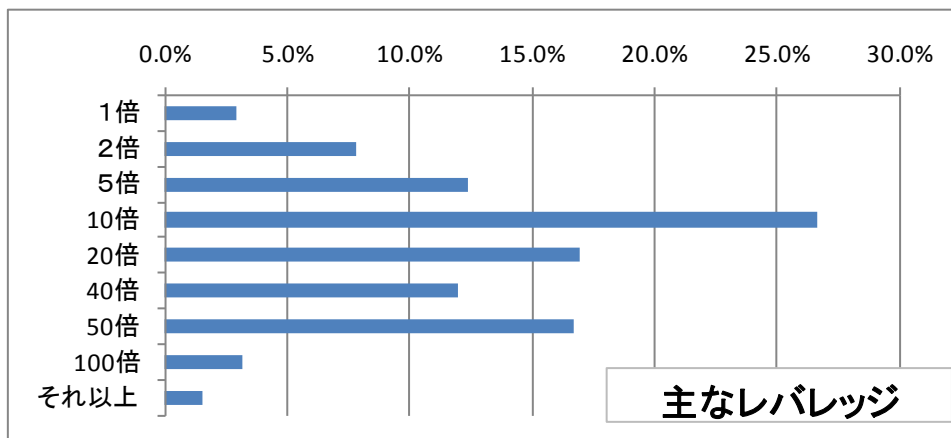
問8: FX取引の際の保証金の額についてお答えください

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、10万円未満と答えた割合(22.0%)が最も多く、50~100万円(18.6%)が2番目に多かった。以下、10~30万円が18.2%、100~300万円が14.8%、30~50万円が11.9%、300~500万円が5.4%となっている。前回の調査結果と比較すると30万円以下と答えた合算割合が47.0%から40.2%へ6.8ポイント減少した一方で、50~100万円が13.9%から4.7ポイントの増加、100~300万円と答えた割合が12.8%から2.0ポイントの増加となった。8月から始まるいわゆるレバレッジ規制を前に、一部のFX投資家は持ち高を維持するために保証金を増額した可能性もあり、今後の推移を見守りたい。



問9: FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？

FX投資の際に主として活用しているレバレッジについて尋ねたところ、10倍と答えた割合(26.6%)が最も多く、20倍(16.9%)が2番目に、50倍(16.7%)が3番目に多かった。これに次ぐ4位が5倍(12.4%)であった。今回の調査では100倍以上の高レバレッジの活用者は「100倍」と「それ(100倍)以上」とを合わせて4.7%と、前月の同合算比率7.3%に比して減少しているのが特徴的だ。8月からの「金融商品取引業等に関する内閣府令の一部を改正する内閣府令」施行を間近に控え、一部取引業者では前倒しでレバレッジの上限を引き下げている事もあり、高レバレッジの取引は減少している様子が見えてくる。

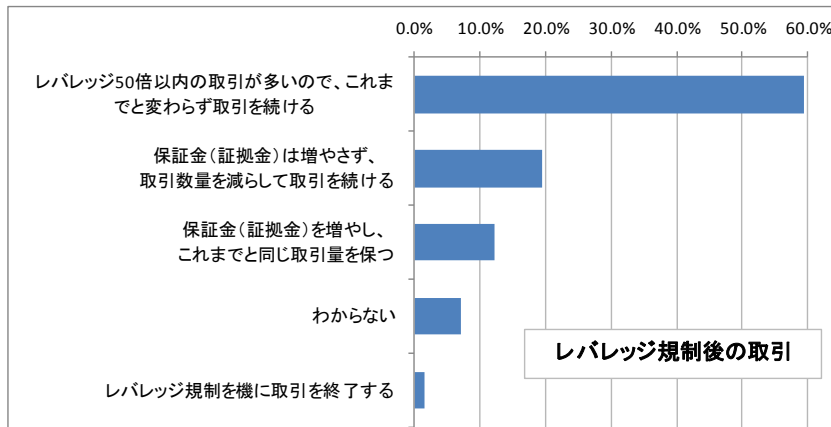


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

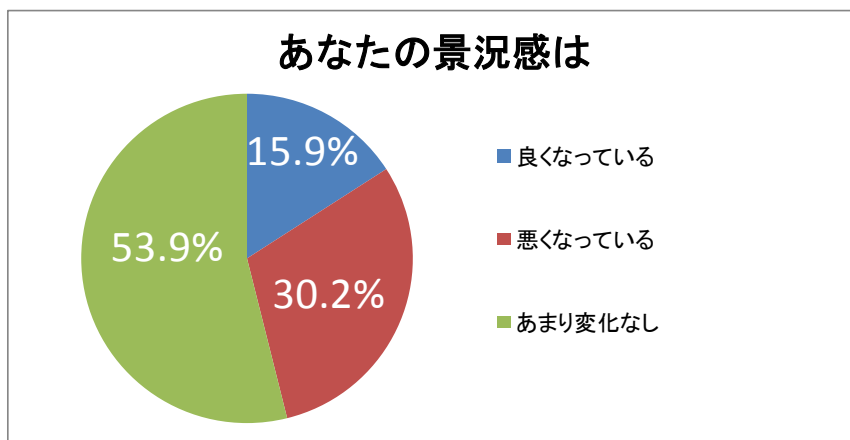
問10: 平成22年8月1日からFX取引についてレバレッジの上限が50倍まで(証拠金率2%以上)となります。この規制を受けて今後のFX取引の意向をお伺いします。(ひとつだけ)

今月の特別質問項目として、いわゆるレバレッジ規制後の取引の意向について尋ねたところ、「レバレッジ50倍以内の取引が多いので、これまでと変わらず取引を続ける」との回答が59.5%を占めた。以下、「保証金は増やさず取引数量を減らす」が19.6%、「保証金を増やしてこれまでと同じ取引量を保つ」が12.1%と続いた。約2割のFX投資家が「取引数量を減らす」と答えている点が特徴的で、8月1日の規制実施以降のFX取引高が減少する可能性をうかがわせる結果となった。



問11: あなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)

今月の特別質問項目として、「あなた個人の『景況感』はいかがですか？(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「良くなっている」と答えた割合が15.9%、「悪くなっている」が30.2%、「あまり変化なし」が53.9%という結果になった。4月調査で同じ質問をした当時と比較すると「良くなっている」と答えた割合が21.1%から5.2%ポイント減少し、「悪くなっている」と答えた割合が22.9%から7.3%ポイント増加となっている。この結果、いわゆる景況感格差は4月調査の▲1.8%ポイントから大幅に悪化し▲14.3%ポイントとなった。5月以降、欧州の信用不安を背景として世界的に株安が進行したこともあり、FX投資家の景況感は急速に悪化したものと推測される。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第14回目となりました。前月との対比での時系列比較は徐々に可能になり始めていますが、まだ開始後1年程度ということもあり、前年同期との比較に十分な調査結果の蓄積は進んでおりません。このため、現時点では統計分析に深みを持たせるために必要不可欠な長期間の時系列比較を十分に提示することはまだできませんが、今後、毎月定点観測で実施する調査結果の蓄積が進むにつれて、DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握も可能になってくることが期待されます。

毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2009年	6月	21.0	35.2	-14.2	38.4	27.2	11.2	48.8	23.7	25.1
	7月	34.6	33.6	1.0	40.2	28.2	12.0	45.5	26.3	19.2
	8月	36.3	30.3	6.0	41.8	27.3	14.5	50.7	23.3	27.4
	9月	32.1	41.3	-9.2	38.0	23.5	14.5	45.1	21.1	24.0
	10月	45.5	24.7	20.8	51.1	17.4	33.7	60.5	15.4	45.1
	11月	22.9	41.8	-18.9	33.6	29.7	3.9	44.6	25.5	19.1
	12月	37.6	31.2	6.4	27.8	37.3	-9.5	41.4	24.0	17.4
2010年	1月	28.5	40.9	-12.4	24.6	45.7	-21.1	41.7	27.4	14.3
	2月	49.9	19.6	30.3	31.6	38.7	-7.1	56.9	14.8	42.1
	3月	37.6	20.9	16.7	30.3	38.2	-7.9	50.0	17.4	32.6
	4月	50.5	19.7	30.8	26.1	44.0	-17.9	53.3	17.5	35.8
	5月	33.9	37.2	-3.3	21.4	59.1	-37.7	40.3	37.1	3.2
	6月	35.9	19.1	16.8	32.9	38.0	-5.1	58.7	15.5	43.2
	7月	40.8	26.8	14.0	41.8	29.2	12.6	53.9	18.3	35.6
	8月									
	9月									
	10月									
	11月									
	12月									
	1月									
2月										
3月										

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com